

## 令和6年度綾部市創生有識者会議 議事概要

日 時：令和6年10月18日（金）13時30分～16時30分

場 所：綾部市役所本庁舎3階第一委員会室

出席委員：有年和廣、泉朝子、上畑隆昭、梅原寿夫、坂根義仁、四方憲生、  
白波瀬聡美、高倉正明、林多嘉子、原田智、平山淳、真下加奈子、  
宮本恵子、山崎栄市、岩本正信

欠席委員：滋野浩毅、永井護、前本和輝、増山佳苗、山中史香、

綾 部 市：上原市長公室長、立藤市民環境部長、四方福祉部長、吉田健康こども部長、  
大島農林商工部長、朝子定住交流部長、四方建設部長、塩見消防長、  
小林上下水道部長、井上議会事務局長、大槻教育部長、四方財務担当部長

事 務 局：志賀企画総務部長、高橋企画総務部理事、鎌部企画政策課長、  
上田企画政策課担当長、新川企画政策課主事、小長谷企画政策課主事

記 者：0名

傍 聴：1名

配布資料：【資料1】綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況（令和5年度評価）

【資料2】綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況・効果検証

【資料3】綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標（KPI）  
実績評価一覧

【資料4】令和5年綾部市転入転出状況

【資料5】地方創生に係る国の交付金事業（地域再生計画）の進捗状況・効果検証

【資料6】デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）

重要業績評価指標（KPI）実績評価一覧

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）

重要業績評価指標（KPI）実績評価一覧

デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）

重要業績評価指標（KPI）実績評価一覧

【資料7】綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略の見直し

### ■協議事項1：綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証

#### 委員

資料3のKPI指標「日本語教室等参加者数」について、増加傾向にはあるものの、目標にはまだ達していない。まちなかを歩いていると外国人が随分増えてきたという印象。ハローワークへ来られる外国人が目立って増えているわけではないが、相談に来られる方や、日本語がうまく話せない方はたくさん見受ける。国際交流協会を通じて日本語を勉強される外国人が増えているということは、コミュニティの中で生活される上で当然必要であり、日本語の能力を向上する上でも有益と感じている。今後さらに改善するには、日本語学校での実施内容や時間帯が参加者のニーズと合っているのか再確認することも一つ。確認の

手法は、アンケート実施が考えられるが、例えば時間や実施場所、費用等、要因を特定して実施内容等の調整が必要ではないか。加えて、日本語を学びたい方へ適切に周知できているかを確認し、必要に応じて広報手段を見直すことも必要ではないか。広報の現状を把握できていないが、地域のボランティア団体やNPO等と連携した日本語教室の周知や、SNSやラジオ放送の活用、外国人のコミュニティのリーダーになるような方を通じて、より多くの潜在的な参加者に周知していくことが必要かと思う。参加しやすい手法として、オンラインを活用した日本語教室の実施により、時間の制約や都合等で参加できない方も参加しやすくなるのではないか。また、人手不足について、企業からは、日本人がなかなか採用できないので外国人に頼っておられることを聞いており、外国人の活用が欠かせない状況になってきていると感じる。外国人は、単なる一時的就労ではなく、長く地域に住み働いてもらえるような人材として捉えている事業者が増えているように見受ける。今年度から特定技能2号の対象分野が拡大された。特定技能2号となると在留期間が無制限であり、10年在留すると永住権が取得できるので、綾部市で長く就労いただける人材になっていた。長く住んでもらうためにはやはり日本語がハードルになってくるので、現在実施されている日本語教室に加え、事業所が実施する日本語教室への支援も、出来ればお願いをしたい。

#### **担当部長**

KPI指標「日本語教室等参加者数」については、コロナ禍の影響等もあり令和2～4年度にかけて大きく減少したが、令和5年度は回復傾向にあり、今年度もさらに増加すると見込んでいる。委員ご発言のとおり、外国人が急増する中、労働力としても企業へ貢献されており、今後も日本語教室のニーズは高まっていくものと考えている。日本語教室は、国際交流協会において毎週金曜日、午後7時から2時間程度で実施いただいているが、ニーズが高まる状況も踏まえ、日曜日も開催されているところ。市としては、実施会場見直しに伴い、委託料の増額等を検討している。また、周知方法については、市では広報紙等を通じた広報を行っているが、基本的には国際交流協会が主体的に周知いただいている。今後もニーズが見込まれる中、情報発信の更なる強化に努めてまいりたい。一方で、一部の企業では、自主的に日本語教室を設けておられるところもあり、労働者だけでなく、留学生や日本語を学びたいといった方も参加されている状況。労働者に加え留学生等の状況も的確に掴んでいく必要があると考えており、ニーズへの対応を検討するとともに、国際交流協会においては限られた人材と資源の中で対応していただいているので、支援についても検討してまいりたい。

#### **委員**

転入転出状況について、毎年、綾部市から福知山市への転出が多いが、転出要因等は把握されているのか。

#### **担当部長**

転出要因については把握ができていない。推察となるが、住まいについて、福知山市での住宅購入や賃貸物件に入居されるケースも見受けられるため、要因になっていると考える。

## 委員

福知山市は通勤圏内であるにも関わらず転出が多いのはもったいない。出来れば何が要因となっているのか把握いただき、要因に対する対策を講じていただくことが人口減少の抑制に繋がると思うのでお願いしたい。

## 座長

例えば、綾部市の土地が不足している等、物理的な要因によって福知山市へ転出されているのであれば、対応策が考えられると思うので、その辺りも十分検討してまいりたい。

## 委員

一点目は、都会の方と地元住民が意見を交わす場があれば、地元住民にとって、都市部から見た綾部市に気づく機会になると考えるが、都市部と地元住民の交流や、都市部への情報発信等について、現在どういった取組がされているのか教えていただきたい。先日のテレビ番組で綾部市が紹介されたことを機に、あやべ温泉では放送後の休日に720人の来客があり、キャンプ場のキャンセル待ちも発生していると聞いており、都市部の方には綾部市を訪れたいニーズがあるのではないかと感じている。これは資料3のKPI指標「日帰り観光客数」の実績にも表れているのではないかと感じている。二点目は、資料3のKPI指標「婚活イベントでのカップリング数」について。自身もこれまで関わっていたが、コロナ禍以降は実施が難しくなっている。関係者からは、今はLGBTQ+等の多様な方がおられ、性別を区分けした開催は難しいことを聞いている。今後は性別に捉われない交流イベントのような開催方法へ改善することで、より若年層が出会いやすくなるのではと思うので、KPI指標の実績も踏まえ、検討いただきたい。

## 担当部長

都市部の方と地元住民の交流については、綾部市では都市農村交流に取り組んでおり、都市部の方へ田舎暮らしの魅力を発信し、実際に体験いただけるメニューが複数ある。例えば水源の里集落等では、都市部の方が実際に地域へ入られた時に交流を深める機会を設けている。委員のご発言は、幅広く、オープンに話ができる場がないかということと思うが、そのようなことはまだ実施していない。今後は、東京あやべ会や京都あやべ会等の団体とも連携をしながら機会を探っていききたい。また、テレビ番組については、取材いただく機会が増えており、要因の一つとして、あやべ地域交流大使であるシャンプーハットのでつじ氏の影響で関西のテレビ局に多く取り上げていただいている。今後、こういった機会を十分に活用しながら広く綾部市を発信してまいりたい。やはりネットでの発信力も大きいですが、テレビの影響力も大きい。委員ご発言のとおり、あやべ温泉が大変賑わっているので、これを一過性で終わらないよう引き続き努力してまいりたい。合わせて、現在、ドラマを誘致し、上林地区で収録を行っているところ。来年1月から3月にかけて、BS-TBS、地上波ではKBS京都での放送を予定している。1話30分、全10話の連続ドラマであり、こういった機会も通じて綾部市の魅力を発信していければと考えている。

## 担当部長

婚活イベントについて、いただいた意見は前向きに検討してまいりたい。婚活のイベントの現状については、綾部市が直接実施をするのではなく、地域団体の方々が実施される事業に対して支援を行っている。近年取り組んでいただいている団体からは、実施が困難な

要因として、対面での開催が時代にマッチしないのではないかと聞いている。最近の全国的な傾向では、結婚された方の約45%がマッチングアプリを介して結婚されているといったデータがある。一方、対面での出会いを求めている方もおられ、ニーズはあると聞いているので、ご意見いただいたような形式での開催により、出会いの機会が創出できるよう、団体と相談してまいりたい。また、京都府では、京都婚活応援センターにおいて婚活支援の担い手の掘り起こしや婚活イベントなども実施されており、連携を強化する中で、検討していく必要があると考えている。

### 委員

駅北のものづくり交流館やあやテラスを見ていると、平日の昼間であっても人が多い印象をもった。しかし、資料2のKPI指標「ものづくり交流館利用者数」の実績では達成率100%以上である一方、KPI指標「あいアカデミー等の各種講座への参加者数」の実績は達成率50%未満となっている。あいアカデミーの開催場所を把握していないが、駅北エリアで実施されているのであれば、駅北は人が多く集まりやすい中、実績を見る中では、駅北で開催されるイベントや講座への参加者数はもう一歩なのかという印象を受けた。綾部市は駅北の空間をどのように評価されているのか教えていただきたい。

### 担当理事

達成率50%未満のKPI指標については、総合戦略を策定したのがコロナ禍前の平成31年度であり、その後、コロナの影響を経て実績が伸び悩んでいる指標もある。駅北のにぎわい創出については、綾部市では昨年度、都市計画マスタープランを見直し、あやテラス等のハード整備は一定終えたところ。今後は（旧市街地を含めて市全体のまちづくりのための）ソフト事業が必要になるので、次期総合戦略では、そういったところも十分対応していく予定である。加えて、先ほど委員から質問いただいた福知山市への転入について、大きな要因は、やはり住まい。特に若い世代が住まれる賃貸の分譲マンションが福知山市には多い傾向がある。綾部市では都市計画マスタープランで新たな宅地ゾーンを設け、住まいの基盤を増やしていきたいと考えているところ。

### 座長

現在、駅北に都市機能を集中させるべく、まちづくりを進めているところ。あやテラスについては、昨年11月にオープンしたことからKPI指標には加わっていないが、図書館の利用者数は9月末時点で約18万人。子育て交流センター「あやっこひろば」については約4万5千人に利用いただいております、約半数が市外からの利用者である。地域交流センター「あやテラス・ホール」については、宴会や研修、講演会での利用が多く、165件、約1万人の方に利用いただいているところ。

### 委員

社会動態が2年連続でプラスであることは大変喜ばしい。他市町でも少ないのではないかと感じる。自然動態でなく社会動態がプラスに転じたということは、これまでの取組の成果であると。一方、資料3のKPI指標「あやべ特別市民の会員数」の実績が減少傾向にあることが気にかかる。あやべ特別市民は、ふるさと納税と異なり、綾部市を応援したい方が年会費を支払い、特産品を受け取る制度。製品の生産者にとっても生産数を見込める素晴らしい制度。これまでからチラシでの周知は実施されているが、例えばキャンペーンを設け

る等の策があれば、より目標値に近づくのではないか。

#### **担当部長**

特別市民の会員数は、平成 27 年度の 2,156 人がピークであり、以降毎年 50～100 人程度減少している状況。現在も多方面で様々な働きかけに努めているが、ふるさと納税や会員の高齢化等が影響し減少傾向となっているため、キャンペーン等も計画し会員増に努めてまいりたい。また、委員ご発言のとおり製品の生産者からも大変喜んでいただいているが、会員が急増すると、そこに対応できるのかという課題も生じる。会員増に取り組むとともに、生産者への対応の検討も合わせて進めてまいりたい。

#### **委員**

資料 6 のデジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）を活用した「綾部市情報配信サービスプラットフォーム構築事業」について、地域情報アプリを構築されたが、KPI の実績がゼロになっている。サービスを開始されてから、どれほど経過したのか把握していないが、現時点の利用状況と情報発信の状況を教えていただきたい。また、デジタル技術の活用が非常に重要になってきており、住民生活を支え、住民サービスの維持や社会インフラの管理等、様々な課題に必要不可欠。国の支援策では、予算を倍増するといった話もあり、今後、ますますデジタルの活用が重要になってくるかと思うが、多方面での活用方策について、市の考えをお聞かせいただきたい。

#### **担当部長**

地域情報アプリ「ライフビジョン」について、令和 5 年度に構築し運用開始したところであり、運用開始前には自治体連合会へ説明を行ったところ。現時点のダウンロード数は 1,591 件。依然としてガラケーを使われている高齢者も多く、従来のメルマガジンの情報取得を希望される方も多い状況。しかし、スマートフォンへ移行される方もおられ、今後もアプリの周知や利用拡大に取り組んでまいりたい。毎年度スマホ体験教室を行っており、今年度は地域情報アプリをテーマとした講習会を開催し、市民に実際体験いただく中で、アプリの通知機能の方がメルマガよりも迅速で便利であることも実感していただいているところ。発信している情報は、避難所やハザードマップ等の防災分野、イベントや暮らしに関わる情報、公共施設等。また、市ホームページへもリンクしており閲覧いただける。綾部市のデジタル施策の推進については、自治体 DX 推進計画の方針によりデジタルを活用した市民サービスの向上や行政の効率化、地域活力の創出を目指しているところ。現在は、デジタルデバインド解消に向けた高齢者を対象とするスマホ体験教室や、行政手続きのオンライン化等の他、住民サービスとして、国の交付金を活用した健康サポートアプリの構築、小学校の保護者連絡ツール、AR を活用した防災訓練等も取り組んでいるところ。次年度以降、基幹業務の標準化に伴うガバメントクラウド移行と連動しておくやみ窓口、書かない窓口、キャッシュレス化等も検討していくところ。今後デジタル施策を進めていく上で、まずは、これまでアナログで行っていたことをデジタル化し、住民の利便性向上と職員の業務負担軽減に繋げる等小さな取組から着手し、対応を図ってまいりたい。

#### **委員**

回答いただいたとおり、小さなことから取り組むのも非常に重要。デジタル化は手段であるため、デジタル化自体を目的とせず、住民目線で本当に必要とされているサービスを提

供いただき、綾部市の身の丈に合った取組をいただくことが重要。また、デジタル化により職員の負担が増えてしまうことを避けることも重要。近年は人手不足が深刻化し、職員1人の仕事量が増えていることから、効率化や生産性向上に繋がるようなデジタル化に取り組んでいただきたい。国では当初、書かない窓口やシステム導入等が推進されてきたが今は薄れつつあり、自治体の状況や環境に応じたデジタル化へ方向性が変わってきているので、住民や職員を大事にする視点をもったデジタル化を進めていただきたい。

### 事務局

本日欠席されている委員よりご意見・質問を報告する。

山中委員からは二点。一点目は、保育士を志望する学生が減少傾向にあり、新卒の保育士確保が困難になってきている。綾部市では、保育士養成の奨学金制度を設けていただいたが、残念ながら利用する学生が少ない。例えば綾部高等学校東分校が、家庭科学習で実施されているような、学生が園児と関わる機会を創出し、保育や子育てへの興味関心が持て、イメージアップに繋がる取組を増やしていただけるとありがたい。二点目は、綾部市は、子育てしやすい環境が整っている一方で、一人目を産む家庭が減少している印象。結婚に至るまでの支援として、婚活支援事業補助金をさらに積極的に広報される等、事業推進を強化いただきたい。

永井委員からは一点。資料3のKPI指標「就職フェア・合同企業説明会参加企業数」について、KPIに参加企業数が設定されているが、就職フェアの参加者数を設定されてはどうか。

### 担当部長

学生が保育や子育てに興味を持てる取組については、市内の中学校では、保育園等の職場体験を実施し、生徒が乳幼児と関わりながら保育士の仕事について学ぶ機会を設けている。中でも物部保育園では、今年9月に八田中学校の生徒2人、綾部中学校の生徒3人が職場体験を行った。10月には、綾部中学校の3年生162人が家庭科授業の一環で実施された。こうした義務教育のうちから、保育や子育てへの興味、関心を持てる取組は、保育人材の確保といった観点だけでなく、将来子どもをもち育てる等といった意識にも大きく影響を与えるものと考えており、市教育委員会とも連携しながら継続したいと考えている。

### 担当部長

先ほどの回答と重複する内容もあるが、婚活支援事業補助金については、市の実施事業でなく、地域団体等が実施される際に1事業10万円の補助を行う間接的事業。昨年度においても、実績のある各団体へ直接声かけ等を行ったが実施は難しいとのことだった。理由としては、一定数の参加者を集めることが困難になりつつあり、対面式の実施が時代に合わなくなっているのではないかと声を聞いている。最近はマッチングアプリ等で出会いを求める方が増えていることも要因の一つではないかと考える一方で、対面式での出会いを求めるニーズもあるので、イベントの工夫が必要と考えている。いずれにしても、市民の自主的な取組が重要であると考えているので、引き続き支援を行ってまいりたい。

### 担当部長

KPI指標「就職フェア・合同企業説明会参加企業数」について、参加者数を設定されてはというご意見については、まず、参加者の増加に向けた取組として、土日開催や開催場所

を綾部市内だけでなく京都市内等でも開催しているところ。令和5年度から、大学2～4年生へダイレクトメールを送付し、令和6年度は送付する対象を全ての大学生へ拡大したが、学生の参加者数は減少傾向となっている。一般参加者向けには、ふるさと就職支援情報発信事業において、登録者へ月1回発信しているが、登録者は移住定住希望者がメインとなり、学生の登録が減少傾向にある。一方、出展企業の状況については、近年、大企業は独自で民間の転職サイトを通じて人材確保をされている状況。また工業団地の立地企業も大卒者は本社採用が多くなっている。中小企業には多く出展いただいているものの、中小企業の出展だけでは参加者の増加に繋がりにくい状況。これらのことから、就職フェアの参加者数をKPIに設定することは、事業成果を見るのに一定有効な指標であると考えますが、近年の就職サイトの活用や人口減少等による就職フェア参加者数の減少傾向を踏まえ、少し現実的ではないのではと考えている。しかし、求職者にとって、就職フェアは企業と直接話せる機会であり、出展企業の充実が参加者数の増加に繋がるため、引き続き参加企業数をKPIとして設定することとし、参加者数については、KPIに設定せずとも、引き続き一人でも多く参加いただけるよう呼びかけを継続してまいりたい。

## ■協議事項2：地方創生に係る国の交付金事業（地域再生計画）の進捗状況・効果検証

## ■協議事項3：綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略の見直し

### 委員

日帰り観光客数や宿泊観光客数の増加に向けては、情報発信が非常に重要と考える。特に近年はスマホ1台あれば様々な情報が入ってくる状況になっているが、観光客数の増加に向け、ホームページやガイドブック等の手段の他に、例えばSNS等を活用してはどうか。

### 担当部長

綾部市では、フェイスブック、LINE等を活用し情報発信を行っている。観光協会でも、SNSでの情報発信を積極的に行っていただいております、Xやインスタグラム、フェイスブックで様々な工夫のもと発信いただいております。また、有名写真家のコンテンツを活用した発信、あやべ地域交流大使であるシャンプーハットのとつじ氏による発信、先ほど申し上げたドラマの出演者による情報発信も今後取り組んでいきたいと思っております、SNSの活用を意識し進めていきたい。

### 委員

やはり人口減少が一番の課題。人口が減少する状況下で、イベント等で綾部市の良さを再認識していただくと、都会へ転出した人も戻ってきてくれるのではないかと。綾部市から福知山市へ転出されている実態を今日初めて知ったが、綾部市で定住いただけるような環境をつくり、外国人に頼らなくても人口が増えていくような仕組みを考えていかなければいけないのではないかと感じた。

### 委員

私事になるが、家族が市外の大学を卒業し、綾部市の企業へ就職をさせていただいている。本人からは本当に良い企業だと聞いている一方、私自身は企業名を知っていたものの、企業の良さまでは知れていなかったことに気づかされた。綾部市の魅力に加え、市内企業の良さも発信すると、さらに人が集まるのではないかと感じている。綾部高校について申し

上げると、全日制の定員は280人だが、市内の中学3年生全員が綾部高校を受けてくれても、実は定員は埋まらないのが現状。しかし、綾部高校は、ほぼ定員を満たしており、近隣市の高校では定員割れしていることが多い。ということは、近隣市からの生徒が多く、受験者だけでも、市内と市外は、ほぼ同数に近い割合。これだけ近隣市の生徒が多いことから、例えば綾部市と仕事、住居等、何か魅力を発信する仕掛けが出来れば、綾部市に関わり続けてくれるのではないかと感じている。現在、職場体験を実施しており、大学生のように自分が就職したい企業へ行くのではなく、高校の場合は、まず「働く」ことを経験してもらうため生徒が住む場所から比較的通いやすい企業での職場体験を実施している。こういった「働く」という体験に加え、そこで良い印象を生徒へ与えていただくと、就職したいと思うきっかけに繋がることもあると考えている。

## 委員

三点申し上げる。一点目は、総合戦略の改訂について、万博を契機とした観光誘客事業が新たに追加されるが、事業内容の詳細を教えていただきたい。我々も万博に向けて取り組んでいくべきと課題認識しており、目線合わせをしたい。二点目は、駅南口が閑散としていたという声をよく聞く。綾部市の玄関口として降りてきた時に寂しい印象を感じると来訪者の方から意見いただくことがある。駅北が充実してきていることから、例えば花壇の整備や、案内看板の整備、訪れた人を歓迎するような雰囲気を整備する等、意見を聞くことが多くなってきたので、今後検討いただきたい。また、綾部市の代表的な観光施設の看板も分かりづらいといった声も聞く。具体的には、ふれあい牧場や私市円山古墳、天文館パオ等の看板が老朽化し見えにくいので、定期整備が必要と感じている。三点目については、総合戦略の施策に「観光資源を活用した地域の自主的なイベントへの助成や情報発信などによる取組の支援」の項目があるが、近年は特に人手不足により地域の伝統的なお祭り等の開催が難しくなっていることを聞く。地域の伝統行事を文化観光のコンテンツ化する等、イベントとして我々も発信していかなければいけないと感じている。参考として、民間団体が運営する「おてつたび」というサイトがあり、各地域の手伝いや課題解決をしながら旅をするというコンセプトであるが、綾部市でもこういった取組により、都市部の方に関わっていただく中で関係人口になっていただき、ファンを増やしていくといった観光の仕組みが必要になってくるのではないかと感じている。KPI指標に観光入込客数があり、訪れていただく人数ももちろん重要だが、訪れた一人一人の満足度と関わり方の深さが重要になってくるのではないかと感じている。そういった部分に重点を置いた施策を一緒に考えていければありがたい。

## 座長

駅南については、新たな開発は難しいが、現状の計画を申し上げると、旧図書館の跡地を市民活動の活性化拠点施設として整備しており、旧綾部幼稚園の跡地については、子ども発達支援拠点施設として整備中。旧市民センター跡地についても新都市公園を整備中であり、I・Tビルのリニューアルに向けた議論も進めているところ。様々な課題はあるが駅南についても、まちづくりを進めている。案内看板については、今後検討させていただきたい。地域イベントへの支援については、お祭り等の伝承維持が課題であることから、次世代に継承できるよう、FMあやべにおいて、イベント等の準備から開催までの全てを映像に

残していただいている。

### **担当部長**

万博を契機とした観光誘客については、トレッキングやサイクリング、カヌー等のアクティビティ、また民宿や料理旅館、飲食店を活かし、万博に訪れる国内外の方をターゲットにしたモデルコースを複数造成し、合わせて、インスタグラム等で発信できるコンテンツも造成する予定。詳細が固まれば、観光協会とも連携しながら進めていきたいので、引き続きご協力をお願いしたい。今後は、こういったコンテンツを活用し、特に海外の旅行会社に向けて綾部市の観光をPRしていきたい。当然、万博期間中にとどまらず、万博終了後もこういった取組を続けていきたい。また、万博会場の京都ブースにおいては、黒谷和紙と綾部市のお茶をPRできるような出展を予定しているところ。

### **委員**

KPI 指標にある、あやべ特産館とあやべグンゼスクエアについては、商工会議所で管理している関係から状況を報告する。コロナの影響を受けた令和2～4年度は、観光入込客数は大変厳しい状況下であったが、何とかあやべ特産館の収益を確保できた。今年は、観光バス数が、コロナ禍前の年間約270台まではいかないものの、大きく回復し、博物苑等の予約含め、観光客の動きが活発化しつつある。綾部市の場合は、インバウンドが少ないことが特徴的であるが、引き続きあやべ特産館を観光の拠点として情報発信も努めていきたい。また、外国人労働者について、今年、改正出入国管理法の施行、育成就労制度が創設され、人材育成が目的とされた。綾部市では以前からベトナムを中心とした外国人を雇用する事業所が増えており、管理職の外国人もおられる等、外国人労働者は重要になっている。しかし、労働環境の改善や職場でのコミュニティの円滑化、また地域コミュニティとの連携が長期的な視点では課題になってくるのではないかと感じている。加えて、商工会議所の部会で出た特徴的な意見を報告させていただく。既に新聞等で、京都府と滋賀県の経済状況はいずれも穏やかな回復基調にあると報告されているが、地域の実態は大変厳しい状況が続いている。建設部会では、資材の高騰や公共事業費の減少、労働基準法改正に伴う残業規制への対応により、工期の長期化や仕事量も減少している状況。職人不足や次世代への継承も含め、大きな課題として報告がされた。料理飲食部会では、コロナ明けは、プレミアム商品券の事業実施により活気づいたが、以降は利用客が少ない状況が続いていると報告があった。綾部市の地域経済は、決して穏やかな回復基調にある状況ではないことを報告させていただく。

### **委員**

私自身、商工会議所女性会に参加しており、10年ほど前から人口増に向けて婚活を実施していた。若年層でなく35～60歳ぐらいの方を対象とし、男性は綾部在住の方、女性はどこに在住されている方でも良いこととし、綾部市へ転入いただくことで人口増に貢献すると思いで活動してきたので紹介させていただく。

### **委員**

三点申し上げる。一点目は、資料2のKPI指標「あいアカデミー等各種講座への参加者数」の達成率50%未満について、コロナ禍は人数制限により参加者数が少なかったこともあるが、あいアカデミー講座の講師謝礼の予算化が不十分であることから、ニーズに合った講

師選定、講演内容が開催できず、同じ参加者が参加されている実態が見受けられる。男性の参加者も少ない実態も含め、市の予算化を検討いただきたい。二点目は、総合戦略の改訂について、「自治会女性活躍促進事業」が追加されるが、事業内容の詳細を教えてください。三点目は、先ほど旧図書館の跡地を市民活動の活性化拠点施設として整備することを報告されたが、団体が会議等で会場を使用する場合の使用料が非常に高く、貸出されている会場も少ない。旧図書館の跡地に整備される施設内には無料で使用できる会場があるのか教えてください。また、市民ホールの跡地の詳細、ボランティアセンターの事務所移転後の詳細も教えてください。

#### **担当部長**

「自治会女性活躍促進事業」は今年度開始した事業。モデル地区を選定し、女性が活躍し地域活動に取り組んでいくことを目的として、市も地域に入り、講師も交えながら最終的には、例えば女性自治会長を増やす、そのハードルが高ければ、女性組長を増やすことを目指していた。実際、ある自治会の話を知っていると、人手不足であることからやむを得ず女性の方が組長になっている状況を聞いたところ。この状況を踏まえ、方向性を見直し、軌道修正が必要と考えている。今後、他の自治会へ入らせていただく予定にしており、状況をお聞きしながら今後の方向性を検討していく。旧図書館跡地に整備するハート交流センターの会場使用料については、他施設の使用料等を加味し、高い料金にならないよう調整しており、ご理解いただきたい。無料で使用できるスペースについては、どなたでも使用いただけるフリースペースを設けるのでご利用いただきたい。また、ボランティアセンターに参画する団体は、従来同様、無料で使用いただける。エレベーターも設置をする方向で工事を進めているところ。

#### **担当部長**

市民ホールの跡地については、老朽化により解体する方針で進めている。大雨により浸水することもあり、現在、内水対策計画策定に向けた検討について外部委託しており、今後の動きにより利用方法や民間への売却も含め検討する予定。

#### **委員**

デジタル化の推進について、ガラケーからスマートフォンへ移行されにくい中、行政デジタル推進課と連携し、自治会内での地域情報アプリを活用した情報発信を進めているところ。これが進むとペーパーレス化や職員の負担軽減が図れていくのではないかと感じている。また、「自治会女性活躍促進事業」については、市で取組を推進いただいたことで、自治会内での動きが見受けられている。具体的には自治会長、副自治会長、会計、自治会によっては農地部長の3役或いは4役で1つのことをこなしていこうという自治会が出てきている。この背景には勤務する人が多いことがあり、役職に就いても自治会任務に手がまわらないので、3～4人で1つのことをこなしていこうという考え。まだ途中経過であり、今後どうなるか分からないが、市の取組によって自治会でもこうした動きがでてきている。

#### **座長**

今年度は次期総合戦略の策定に向け、委員の皆様にはお世話になる。

閉会